

第3学年英語科学習指導案

日時：平成18年11月2日(木)1校時
生徒：3年A組(男子8名 女子10名 計18名)
授業者：教諭 内田典子
英語指導助手 Scott Snochowski

1 単元名 Unit 6 20th Century Greats
(New Horizon English Course Book 3 東京書籍)

2 単元について

(1) 教材観

本単元では、外国語科の目標「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う」ために、「話すこと」の指導内容「(ウ) 聞いたり読んだりしたことについて、問答したり意見を述べ合ったりすること」及び「書くこと」の指導内容「(イ) 聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想や意見などを書いたりすること」に力を入れて指導しようとするものである。

本単元は、20世紀の偉人についてレポートをまとめる形での単元となっている。教科書では、レイチェル・カーソンを取り上げているが、生徒にも実際に実在の人物についての簡単なレポートを書かせて単元の学習のまとめとしたい。そのためには、生徒の興味関心に留意して教材を提示し、人物についてどんな人が詳しく説明する時には、関係代名詞を含む表現を使うことができることを指導していきたい。

また、本単元は、名詞を後ろから修飾する「後置修飾」のまとめをめざす単元である。後置修飾は、1・2学年では「前置詞句によるもの」、3学年1学期では「不定詞によるもの」、2学期の前単元では「現在分詞及び過去分詞によるもの」を扱ってきた。本単元では「関係代名詞を含む節を用いた後置修飾」を扱う。生徒には、これまで修飾関係における日本語と英語の語順の違いについて指導してきた。英語は、結論を先に言う言語であるという原則を踏まえ、物事を説明する時に、英語ではまず名詞を提示して、その後どんな物・人であるかを「後置修飾」とするという一連の働きを押さえたい。

また、Starting Out では「接触節」を扱うが、これは関係代名詞目的格の省略というようにはとらえず、名詞の後の語順を意識した指導と具体的な例を用いた反復練習によって身につけさせていきたい。Dialog以降は、関係代名詞節の指導となるが、主格に関しては、「人を説明する時は who」「物を説明する時は which」を原則としたい。ただし、口語では that も多く用いられることから、that または which を用いることとする。目的格では、接触節をすでに扱っているため、that を入れることも可能であるという指導に留めたい。

(2) 生徒観

明るく素直で、1・2年時より英語で聞いたり話したりする活動に慣れ親しんできている生徒達である。学級全体の学力的分布は、定期テスト等の結果から、全体の4分の3程度の生徒が基礎学力を身につけており、授業にも意欲的な生徒が多く、英語を積極的に使おうという態度の生徒が多い。残りの生徒については、やや援助を必要とするため、わからない時にすぐ聞いたり教えたりできるようにグループやペアによる活動を多く取り入れて活動している。

「聞く・話す」活動においては、授業の導入段階に WarmUp として、身近な題材を例に「すらすら英会話カード」を用意し、まずはプリントを見ながら文をそのまま読むことから始め、徐々にプリントから目を離したり、自分のことで答えられるように段階的に指導してきた。生徒たちは、好きな歌・歌手・スポーツ・映画・食べ物など相手の好きな物について聞いたり答えたりしたいという興味をもっており、ALT とも同じ質問で問答できる内容で練習している。また、実際の会話では一度で聞き取れないこともあり、聞き返したり・話をつないだりする言葉についても、これまでの授業の導入部分で指導してきた。

態度面については、英語で話をする時に重要なこととして、「アイコンタクト」「スマイル」「相手に聞こえる十分な音量」等を確認している。生徒の様子としては、笑顔で取り組む生徒が多いが、まだプリントから目が話せなかったり、「アイコンタクト」ができていない生徒もいる。そこで、回数を積み重ねることに

よって、徐々に慣れさせ、基本的な会話については、何も見ないで会話できるよう指導していきたい。

「書く」活動においては、授業の終末時にその時間に学習した基本文についての書き取りテストを予告し、生徒は指定された英文をノートに練習してくることを毎時間家庭学習として課しているため、基本文を正しい語順で書くことについては、ほぼ力をつけてきている。しかし、スペリングミスがまだまだ多いため、個人的にまた同じような間違いについては、その都度確認するようにしている。「書く」活動においては、1年生より、段階的に自己紹介や手紙・将来なりたい職業などについて自己表現する活動を行ってきた。3年生では、日本文化の紹介やスキット作り等を行ってきた。本単元では、教科書にならって「20世紀の偉人」を一人選び、紹介文を書きクラスの前で発表することでまとめとしたい。

(3) 指導観

本校研究テーマ「意欲的に自分の考えを伝えることのできる生徒の育成」に関わって、英語科では「表現の能力(話す・書く)」活動に重点をおいて指導してきた。話す・書く活動は、各単位時間の授業の理解はもちろんであるが、わかった・できた学習内容を用いて自分がいいたいことを話したり、書いたりすることによって「英語が使える」ことをめざすものである。

本単元では、「後置修飾」のまとめということ、いままで物や人について説明や紹介してきたことを踏まえて、さらに詳しく説明や紹介をするためには「後置修飾」の方法で名詞の後ろに語句を継ぎ足していくことで、自分のいいたいことを今まで以上に詳しく表現できるという実感をもたせたい。物を説明する場面では、自分のもっている物についての紹介や人にどんな物であるかの説明を接触節及び関係代名詞の主格・目的格を用いて、自己表現させたい。人を説明する場面では、「自分が紹介したい人」について、関係代名詞の主格や目的格を用いて自分の言葉で表現させたい。

3 指導計画

(1) 指導目標

<ア> [コミュニケーションへの関心・意欲・態度]

- ・ 「接触節」を用いて、積極的に自分の伝えたい物を説明したり、相手の伝えたい物を理解しようとしている。

<イ> [表現の能力]

- ・ 「接触節」及び「関係代名詞節」を用いて、物や人を話すことにより説明・紹介できる。
- ・ 「接触節」及び「関係代名詞節」を用いて、物や人を説明・紹介する文を3文以上で書くことができる。

<ウ> [理解の能力]

- ・ 「接触節」及び「関係代名詞節」を用いた文を聞いて、内容を理解することができる。
- ・ 本文を読んで、内容を理解することができる。

<エ> [言語や文化についての知識・理解]

- ・ 「接触節」及び「関係代名詞節」について語順・語法等を正しく理解している。

(2) 指導及び評価計画 (Unit 6・・・全 8 時間)

時間	学習内容・活動	評価規準	評価方法	表現の場面設定
1	p58 Starting Out ・「接触節」を含む文の構造の理解 ・「接触節」を含む文を用いた説明文の作成(ペア)	<エ>【知識・理解】 ・「これは、～が～した・・・です。」という文の構造を理解することができる。 <イ>【表現の能力】 ・「これは、～が～した・・・です。」という文を含む3文以上の文を書くことができる。	・ 発言 ・ プリント ・ ノート	・ 与えられた物について、ペアで協力して、「接触節」を含む3文以上の文を書く。(書くこと)

2	<p>p58 Starting Out</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「接触節」を含む文を用いた説明文の作成（個人） ・「接触節」を含む文の用いた問答 	<p><イ>【表現の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「This is something ~.」を含む3文以上の文で伝えたいことが書ける。 <p><ア>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「This is something ~.」を含む文を用いて、自分の伝えたい物を説明したり、相手の伝えたい物を理解しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プリント ・観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・与えられた物について、個人で「接触節」を含む3文以上の文を書く。（書くこと） ・相手との問答を通して、自分の伝えたい物を説明したり、相手の伝えたい物を理解しようとする活動を設定する。（聞くこと・話すこと）
3	<p>p59 Dialog</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係代名詞（主格）whoを含む文の理解 ・本文の概要理解 	<p><エ>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係代名詞 who は、人を詳しく説明する時に用いることや who の後の詞順などがわかる。 <p><ウ>【理解の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の本文を読んで、どんな内容であるかがわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プリント ・音読 	
4	<p>p60 Reading for Communication</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係代名詞（主格）that または which を含む文の理解 ・本文の概要理解 	<p><エ>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係代名詞 that または which は、物を詳しく説明する時に用いることや that または which の後の詞順などがわかる。 <p><ウ>【理解の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の本文を読んで、どんな内容であるかがわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プリント ・音読 	
5	<p>p61 Reading for Communication 及び p62</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係代名詞（目的格）that を含む文の理解 ・本文の概要理解 ・レイチェル・カーソンについてのまとめ 	<p><エ>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係代名詞（目的格）that は、「～が～した・・・」というように、人も物も修飾できることや that 以下の詞順がわかる。 <p><ウ>【理解の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の本文を読んで、どんな内容であるかがわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プリント ・音読 	
6	<p>p63 Listening Plus 6 p64 「後置修飾」のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジョン・レノンについてのレポートを聞いての内容の聞き取り ・「後置修飾」のまとめ 	<p><ウ>【理解の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジョン・レノンについてのレポートを聞いて、重要な部分の内容を聞き取ることができる。 <p><エ>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで学習してきたいろいろな語句による「後置修飾」について、総合的に理解できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プリント ・小テスト 	
7	<p>自分が選んだ20世紀の偉人についての説明文の作成</p>	<p><イ>【表現の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が選んだ「20世紀の偉人」について、教科書の例にならって、8～10行程程度のレポートにまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の選んだ「20世紀の偉人」について、自分の言葉でレポートをまとめる。（書くこと）
8	<p>自分が選んだ20世紀の偉人についての説明文の発表</p>	<p><イ>【表現の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の作成したレポートを、英語で適切に発表することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のまとめたレポートを、英語で発表する。（話すこと）

4 本時の指導（全 8 時間中 2 時間目）

（１）本時の主題 「Unit 6 20th Century Greats p58 Starting Out（第2時）」

（２）本時の目標

「This is something + 接触節 .」を含む文を用いて、積極的に自分の伝えたい物を説明したり、相手の伝えたい物を理解しようとしている。 <ア> [コミュニケーションへの関心・意欲・態度]

「This is something + 接触節 .」を含み、3文以上で伝えたいことを書くことができる。
<イ> [表現の能力]

（３）本時の指導構想

導入部では、Warm UpとしてTopic Communicationを行い、英語を話しやすい環境を作りたい。

この活動は、会話の基本的なパターンを「すらすら英会話」というプリント等を用いて、まずはプリントを見ながら始め、徐々にプリントを持たずに進めてきた活動である。<研究仮説（１）>

ペアでどんどん相手をかえながら生徒同士が短い時間にいろいろな相手と問答でき、何回か繰り返すと全員と1対1の会話が可能となる。ALTとも1対1で話せる生徒も増えてきた。<研究仮説（２）>

展開部では、前時の課題としていた接触節を含む文の発表を行う。3つの物を9つのグループに3つずつ出題しているため、自分たちが考えたものについて他の2つのグループも書くことになる。自分たちの考えた文と他のグループが考えた文を見て、同じところ違うところなど感じたことを発表したり、他のグループのよい点を積極的に取り入れ、自分たちの文をさらによりよいものにできるという視点で、発表を促したい。<研究仮説（３）>

お互いの意見交流の参考となる意見を積極的に取り入れ、次の活動の準備を兼ねてより相手にわかりやすい文を書く。ALT・JTEとも机間巡視をして、努力を要する生徒に援助する。その後、生徒たちはペアで向かい合い、自分が作った英文で自分が何のことを言っているのかを伝え、相手はそれが何であるかを答える活動を行う。過去分詞や現在分詞による後置修飾を学習した時もお互いに当てる活動は行っているため、その時のことを想起させながら、行わせたい。評価方法としては、観察とプリントの回収を行い判断する。

終末部では、本時の学習を振り返って、「自分の伝えたいことを伝えることができたか。相手の言っていることが理解できたか。」また、「前時と本時の2時間で学習した接触節についてどんな特徴があるか。これからどうこの表現を使っていきたいか。」等についてプリントに記入させ、数名感想を発表させたい。

(4) 展開 (学習活動 表現の項目 評価項目 <評価の観点> 評価方法 ・指導上の留意点)

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点及び評価
導入 15分	1 あいさつ 2 Warm Up 3 前時の確認	決められたトピックについて、会話する。 「接触節」の文の構造について、前時に学習した文を生徒に発表させることによって確認する。	・つなぎ言葉に挑戦させる。 <研究仮説 (1)(2)>
「This is something ~.」という文を使って、それがどんなものかを相手に伝えたり、理解したりしよう。			
展開 30分	4 説明文の発表 (前時の課題発表) 5 意見交流 6 ペア活動の準備 7 ペア活動	前時の課題とした「接触節」を用いての決められた物についての説明文を発表する。 例) <掃除機> This is something you use when you clean a room. It is a machine. It makes a big sound. 例) <うちわ> This is something you use in summer. It is made of paper and plastic. It makes wind. 各班の発表を聞いて、参考になったことやもっと改善した方がいいことについて意見を述べる。 予想される反応 ・whenを使うと「~という時に」と場面が限定されるのでわかりやすいと思う。 ・前の単元で習った過去分詞made ofを使うとそれが何でできているか素材がわかる。 ・それを使う場所や時期、その色や形など今まで学習してきたことを使っていて、わかりやすかった。 意見交流を受けて、次の活動の準備として、さらにわかりやすい文を作る。(書く) 例) <グローブ> This is something you use when you play baseball. You use it to catch a ball. You use it on your hands. 例) <バット> This is something you use when you play baseball. It is long. You can hit a ball with it. It is made of wood. 生徒は、ペア同士向かいあう。互いにAシートBシートを持ち、3分ずつ交代で一人5問を目標に、聞いたり当てたりする。(聞く・話す) 例) <コーヒー> A: This is something you can drink.	・発表の注意点「アイコンタクト」「十分な声量」等に注意して発表させる。 ・他の人の意見を受容したり、高めあったりする場面とする。 <研究仮説 (3)> 「This is something ~.」を含む3文以上の文で伝えたい文が書けたか。 <イ>表現の能力 観察・プリント <研究仮説 (3)> ・ALTは机間巡視し文法的な間違い等があれば助言し、JTEは主に努力を要する生徒等への援助を行う。 「This is something ~.」を含む文を用いて、自分の伝えたい物を説明したり、相手の伝えたい物を当てたりできたか。 <ア>関心・意欲・態度 ・観察・プリント

		<p>B: Is it water ? A : No,it's not.We drink it with milk and sugar. B: Is it tea ? A : No,it's not.It's black and bitter. B: Is it coffee ? A: That's right.</p>	
終末 5分	8 まとめ 9 次時の指示 あいさつ	<p>本時の授業を終えて、自分の今日の取り組みと英語の「あるものの名前を先に言って後から詳しく説明する」という特徴の文を実際自分が使ってみて、これからどうそれを生かしていきたいかを発表する。</p> <p>・いままで習ってきたことを使って、相手に説明することができた。 ・わからない時に、聞き返すことができた。 ・英語は、まず「これは、～です。」と結論を言ってから、後ろにいろいろな言葉を補って詳しく説明することがわかった。 ・これからも、物を説明する時に名詞の後ろに言葉を足して説明する方法を使っていきたい。</p>	<p>・プリントに自己評価させ、数名の生徒に発表させる。 ・ALT 及び JTE は、本時の活動について全体的な評価を述べる。 ・次時の指示を行う。</p>

(5) 具体の評価規準

	十分満足できる	概ね満足できる	努力を要する生徒への手立て
ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	・アイコンタクトや聞き返しなどをしっかりし、自分が伝えたい物について適切に相手に伝えることができる。	・自分が伝えたい物について適切に相手に伝えることができる。	・プリント見ながらも、自分なりに相手に伝えたいことが言えるよう援助する。
イ 表現の能力 (話す・書く)	・「接触節」を含む3文以上の文を、きちんとした構成で書くことができる。	・「接触節」を含み、3文以上で伝えたいことを概ね書くことができる。	・語順を想起させ、「接触節」を含む文は、書けるように援助する。